

20048

当院での下肢慢性完全閉塞（CTO）に対する CROSSER の使用群と非使用群の比較

¹千葉メディカルセンター

鈴木 千尋¹、配野 治¹、秋池 直子¹、山城 翼¹、高橋 進¹、桃井 沙理¹、日暮 英美¹、三浦 貴司¹、堀井 匠¹、小山 梨沙¹、村田 規佑¹、沼田 怜¹

【目的】下肢血管内治療（EVT）を施行した CTO 症例の数例に CROSSER を用いて、使用群と非使用群での透視時間や造影剤使用量、開通率などを Retrospective に比較したため報告する。【対象】2014 年 12 月から 2016 年 5 月までに浅大腿動脈（SFA）の CTO 症例に EVT を施行した 25 名。CROSSER 使用群 14 名（男性 10 名、女性 4 名、内透析患者 7 名）、非使用群 11 名（男性 7 名、女性 4 名、内透析患者 1 名）を対象とした。【方法】CROSSER 使用の目安は石灰化病変として血栓性病変には用いなかった。対象 2 群の開通率、透視時間、造影剤使用量、EVT 前後の ABI 値を比較し、マンホイットニーの U 検定、カイ二乗検定（Yates の補正）にて 0.05 未満を有意差ありとした。【結果】CROSSER 使用/非使用群の開通率 (%) 80/73 (p=0.762)、透視時間 (分) 27/50 (p=0.019)、造影剤使用量 (mL) 112/170 (p=0.006) であり、CROSSER 使用群の方が良い傾向であった。【結語】CROSSER 使用群では、透視時間や造影剤使用量を少なくすることができ、開通率も高かった。